

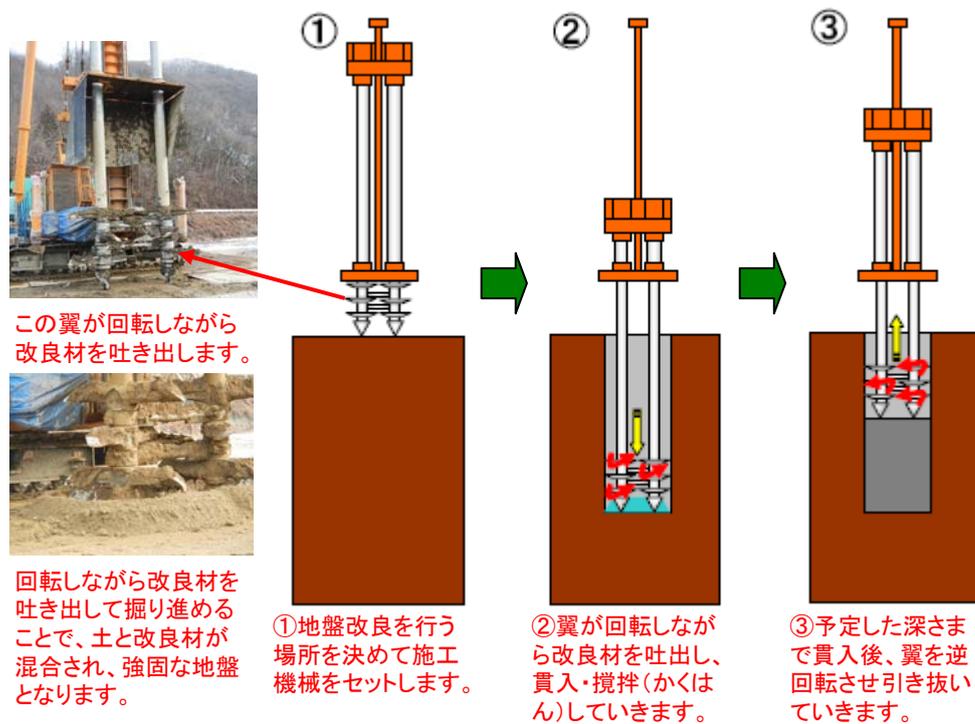
新しい工法で工事を行っています。

一関市藤沢町小日形地区では、北上川上流狭隘地区治水対策事業として輪中堤で整備しており、現在は排水樋門を新しく作る工事を行っています。(狭隘地区治水対策事業については「**あいれぽーとNo.111**」をご覧ください。)

現在、この工事では、樋門を作る箇所の地盤が軟弱なため、構造物の重さに耐えられるように地盤改良を行っています。

今回の地盤改良では、多数の工法を比較検討した結果、一度に広範囲に改良が行うことができ、かつ高品質な施工が可能な『**CI-CMC工法**』という新しい工法を採用しています。今号ではこの工法について皆さんに紹介します。

「CI-CMC工法」の施工イメージ



↑全高が約30mあるこの機械で、最大で地下約18mまで地盤改良を行っています。

写真に写っている作業員の方と較べるとその大きさが分かります。一関市藤沢町小日形地区は北上川の左岸に位置しますが、対岸の花泉町の道路からも見えるほどの大きな機械です。

水いこうもん 水閘門操作員講習会を行いました。

一関出張所では、2月13日(水)に水閘門操作員講習会を行いました。

水閘門操作員とは、洪水により河川が増水した際、宅地などが浸水しないように排水樋門や陸こうのゲートを閉めるなどの操作に従事して頂いている方々です。講習会では、洪水時のゲート操作や点検時における留意点や緊急時の連絡体制について改めて確認しました。



↑操作員の方々が操作している排水樋門(写真左)と陸こう(写真右)。平常時は排水路や道路として利用しますが、洪水により増水した場合にはゲートを閉めることで、堤防と同じ働きをします。



↑講習会の様子。一関出張所では、北上川本川と砂鉄川や磐井川等の支川をあわせて53の排水樋門・水門・陸こうを管理しており、総勢102名の方々(規模の小さい施設を除き1施設2名体制)に操作員として洪水時の操作、定期的な点検や地震時の臨時点検に従事して頂いています。